

外来生物研究ネットワークによる、埼玉県内外での外来生物の生息実態調査、ならびに高校生によるシンポジウム開催・県内の他の外来生物についての研修ならびに調査

高校生主導の研究ネットワーク

同様のテーマで各校の生徒が連携

埼玉県立越谷北高等学校の生物部は、理科系部活動では大人数の20人の部員を擁する。そんな越谷北高校生物部をはじめ、埼玉県と東京都の高校11校によって外来生物研究グループが発足したのは2014年度の事だ。発足のきっかけは埼玉県の生物学教諭による自主研究会だったが、活動自体は生徒が主導しており、各校の参加生徒たちが連絡を取り合いながら、それぞれの研究を持ち寄る研修会や、年に一度開催するシンポジウムなどの企画・運営を行う。

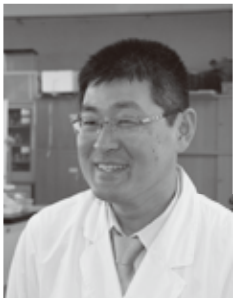
2018年度のチーム代表となった越谷北高校2年生の千葉柚乃さんは「参加校が多いので取りまとめが大変ですが、同じ外来種というテーマで研究をしている同世代との意見交換は、とても貴重で参考になります」と言う。



シンポジウムで研究成果を発表



埼玉県立越谷北高等学校



●実施担当

中川大樹 教諭

●活動のモットー

自分から学び取っていく姿勢を大切にしてほしい。そのため、特に部活動ではあまり細かくは指示せず、生徒主体での活動を重視している。



日本生態学会でポスター発表



ケシの調査



生物部の主要メンバー

シンポジウムに向け、手探りで前進

2018年のシンポジウムは秋に開催する予定だ。千葉さんは「外来生物の問題を小学生はじめ多くの人に知ってほしいですが、広報についてはまだ手探りです」と話す。現在はツイッターで情報を発信しているが、越谷北高校では独自に小学校への出前授業を企画しており、この出前授業や文化祭がシンポジウム参加の呼び水になると期待している。

文化祭での生物部の展示は評判が高い。部長の川上瞭さんは「飼育生物の展示や伝統の金魚すくいもあります」と話す。実は千葉さんや同校生物部のOBでもある顧問の中川大樹教諭は、中学生のときに文化祭での展示を見て越谷北高校への進学を決めた。

中川教諭は「生徒たち自らが学び取っていくことが大切だと考えています。その点、当部員は専門の研究者にも臆せず質問するなど、積極性が特長ですね」と後輩たちを評価している。

(平成29年度プログラム助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索